



特集 地域の自立
菅福元気邑

まちのあちこちで 笑い声が聞こえてくる

みんなの元気を集めて元気なまちに

菅福元気邑村長の青砥昭雄さんにインタビュー

地域の中心的存在

菅福小学校が廃校に

菅福地区は人口307人、125世帯の小さな地域です。この地域では、今まで菅福小学校を中心に、教育・文化振興やコミュニティづくりをしてきました。

同校の運動会、学習発表会などにも地域の住民が加わり、地域全体で学校運営を盛り上げてきました。また、伝統芸能の継承などもいっしょになって取り組んできました。しかし、過疎化により、子ども数も減少。平成13年4月には、隣り地区の黒坂小学校と統合して菅福小学校は廃校になりました。

地域のみんなが

集まれる場所が必要

学校の跡地の利用について、地域の皆さんや保護者、行政と話し合い、跡地には学校に代わる地域の振興施設を整備することにしました。

地域の活性化には何が必要なのか。全戸にアンケート



元気邑の村長 青砥昭雄さん(福長)

ト調査して要望をまとめた結果、みんなが集まれる公民館的な性格を併せ持った「菅福食文化伝承館」を整備することになりました。

あちこちで笑い声

元気印の元気邑に

まず組織づくりから始めました。地域のあちこちで笑い声や楽しい会話が聞こえてくる。そんな元気な地域にした。そう願いを込め「菅福元気邑」と名づけました。

自治会を中心に、若者・女性・高齢者グループ、文化サークル、保護者会などの団体が構成。文化・学習・体育活動、加工品づくりなどに取り組み、地域の活性化を目指しています。

立ち上げから2年
活動成果は着実に

元気邑も立ち上げてから、今年で2年が過ぎました。

食文化伝承館では、豆腐やコンニャク、味噌などの農産物加工品を作って販売。里山のつくり大学では、都市に住む人たちが、毎月この地区を訪れ農業体験。高齢者は自分たちで窯を作り、炭焼きに挑戦するなど着実に地域は活気づいています。

今後の課題は、運動会や文化発表会などの分野にも力を入れること。そして、今取り組んでいる活動が長く続けられるようにしていくことです。行政に頼らずに地域の自立を目指し、全国に広く「元気印」を発信していきたいです。